

同期会便り

在京同窓会メンバーが参加した催しを紹介する。

【平成30年度長野県飯田高等学校定期総会報告】

■高22回

飯田高校同窓会平成30年度定期総会が、6月2日（土）に飯田市シルクホテルにおいて開催された。今年度の当番幹事は、高22回生（前沢元実行委員長）が務めた。首都圏支部からの16名を含め、全国から225名（内高22回110名）が参加した。

◆開会行事、総会

開会の辞、校歌斉唱、物故者追悼、宮島八東同窓会長挨拶、新任の巻山圭一学校長挨拶、実行委員長挨拶、来賓紹介、役員紹介の後、議事が進められました。

議事では、平成29年度事業報告・会計報告、平成30年度事業計画・予算案が承認されました。

いずれも、会長の指名により市岡登事務局長（高22回）が説明されました。

◆講演会

講師は、岩崎廣和さん（高22回）。演題は、「未来を切り拓く情熱〜日本化学遺産に学ぶ〜」。

その「やっつてやろうじゃないか」の不撓不屈の精神は、日本化学遺産として受け継がれています。

またその精神で、医療の分野で挑戦し続けている方が、ナノ医療イノベーションセンター（iCONV）の片岡一則センター長です。iCONVが進めるプロジェクト（CONS）が目指す社会「スマートケアライフ社会」とは、いつでもどこでも誰もが社会的負荷の大きい疾患から解放され気づかぬうちに健康になるというものだそうで、「体内病院」の実現を目指しています。費用が莫大ではなく、いつでもどこでも誰でも受けられる治療とは、何とも心強いことです。

難しい内容を非常にわかりやすくかみ砕いて話してくれましたので、ついつい引き込まれてしまいました。



鏡開き



パフォーマンス



同窓会役員



講師・岩崎廣和氏



吹奏楽班の演奏



岩崎さんは、昭和電工株式会社を経て、現在、ナノ医療イノベーションセンター副センター長として活躍されています。まず、昭和電工の創業の精神が紹介されました。昭和電工は、日本初のアルミニウムの国産化を遂げた会社です。

◆アトラクション

会場を階下に移すと、吹奏楽班の後輩の皆さんがにこやかな笑顔で、私たちを迎え入れてくれました。演奏はとても素晴らしく、さすがいくつもの大会で好成績を収めているだけあって、レベルの高さに感動しました。演奏だけでなく、パフォーマンスでも楽しませてくれました。

後輩たちの頼もしい姿に、今後の活躍を期待したいと思います。

◆懇親会

懇親会では、まず、高松賞が「虎岩の文化財を守る会」に授与されました。来賓紹介、鏡開き、乾杯の後は、それぞれに再会を喜び、健康を確認し合い、昔話に花を咲かせました。

終宴間近、応援団衣装をまとった高22回生によるパフォーマンスが壇上で行われました。在校生が応援歌や校歌をソラでうたえるようにと願いを込め、皆で「友よ若木の」「勝利の曲」、そして再び校歌を合唱しました。

最後に来年度の当番幹事高23回生に引き継ぎを行い、万歳三唱、閉会の辞で締めくくられ、定期総会は和やかなうちに終了しました。

(文責／三ツ橋史緒子)

【各期同期会】

■中47回・高1回

米寿を迎える目出度いな

わが会は、以前からの申し合わせで、47回に因み、桜の咲く4月7日前後の土曜日に開くのを慣例としてきた。たまたま本年は4月7日が土曜日と当たり年になった。以前は会の前に東京の名跡や美術館などを巡る催しもあったが、年を経た今は無い。加えて本年は同期の多くが誕生日には米寿を迎えるという目出度い年でもある。会は例年どおり永田町の永楽倶楽部で開かれた。

年の暮になると友の身内から欠礼の挨拶の数が多くなり、出席者の減少が心配になる。案の定今年もガクンと半減した。出席者は、伊藤祐保、岡本剛(仙台)、北原比呂志、長谷川善利、原哲郎(名古屋)、平田達、古田昌、牧内雪彦、

■中48・高2回

集まった同期は15名

当同期会は長年「春は東京、秋は飯田」の方式を続けてきており、今年も定例の4月第1土曜日、すなわち4月7日に在京者の会を開きました。会場は終身名誉幹事(これは筆者の不規則命名)小島敏君の肝煎りで、同君の事務所と同じビルの一角にある居酒屋「膳所」。十数名程度の会合には打ってつけの店構えで、長テーブルを全員で囲むというアットホームな会となりました。

集まった同期生は15名。盛会とは言えないまでも、年齢のことを考えれば、まずまずといったところか。常連が多かったのは当然のことながら、中で珍しかったのは(おそらくウン十年ぶりの)片桐達生君の姿、また、しばらく見かけなかった今村七三雄君も顔を見せてくれました。な

矢澤西二、米山和夫の10名にとどまった。また、欠席者の多くは体調不良によるものであり、またこの年齢になると孟子にいうところの「鰥」となった一人身(対語は寡)の友も多くなってきた。ついでに言うなら出席者10名のうち、鰥男は、長谷川、牧内、矢澤の3名。

しかし、会はいつも通りににぎにぎしく神門久子さんの講演二席から始まった。一席は古典の名作でもある「木津の勘助」で、人情の機微に心動かされる咄である。二席目はわが同期牧内雪彦作「若き日の河竹繁俊」で、この咄は河竹繁俊(中6回、日本演劇研究者、山本出身)と林伝(中4回、医師、後タイ国に滞在中、龍江出身)の東京における学生生活から始まり、終生続く友情物語である。

講演に酔いしれた後は、いつも通りのにぎにぎしい会食

お、かなり耳が遠くなってきた本多勝一君の「通訳」として、夫人の月子さんも同席しましたので、参集したのは総勢16名ということになります。

今年には誰かの講話に耳を傾けるといった趣向もなく、もっぱら置酒飲語に終始した感がありますが、話題はさすがに身辺雑事が多く、どこかが痛い、あそこが不具合だ、物忘れがひどい、一日の何分の一かは探し物に明け暮れている、などの愚痴めいた話しが顔出するのは年恰好からいっても止むを得ないことだったかも知れません。が、そうしたボヤキの類も一概に排すべきものとは思われず、これは、いわば我々が「善き老人」になるためにトレーニングの一環と見なすことも可能でしょう。もつともその一方で、世情を憂え、恥知らずな政治家どもを罵ってやまぬ人も居ないわけではなく、そ

となり、前澤義行君(高25回・撮影も)も加わって話がはずんで、昔日に戻ったようだった。やがて誰からともなく「あ紅の血は燃ゆる」(副題は「学徒動員の歌」)が歌われ、これ



がなんと全歌詞におよんで次第に若々しく力強く高まって大合唱になったからお見事! かくして校歌の合唱をもって閉めとなった。(矢澤西二/記)



れに多分の共感を覚え、何やら心強い思いをしたことも少し添えておきます。

例によって飯田の「喜久水」の大吟醸「翠障」の利き酒が和気溢れる会合をめでたくってくれたことは言うまでもありません。(当番幹事/富永明夫、小島敏、湯澤和人、岡村隆臣)(富永明夫/記)

■高4回

55回目の節目を迎えた同期会

第55回の27日は5月26日(定例の第4土曜日)に31名の仲間が元気に顔を揃えた。

今年も年齢的にも、多くの出席は望めないのでは? と幹事は心配していたが、定刻の一時には30名を超える嬉しい開会となった。

冒頭、代表幹事の福沢富夫君は「今から55年前の昭和38年に第1回目を立ちあげてから以後、1年も欠かす事なく積み重ねて、今日を迎えた」と

いう実績は本当に素晴らしい! これから先何回続けられるか? 判らないがみんなで誇りを持って88を目標に希望をつないでいこう!」と声こそ小さかったが強い決意を述べていた。

続いて、飯田から参加の山田博章君から一水会(郷里の同期会)の報告があり「毎年この会に出席していた平澤秀明君と塩沢賢次君の死亡が!」告げられ驚きと悲しみに沈んだ。

宴会は久しぶりに顔を出した平沢信夫君の乾杯の発声で始まったが、待ちきれなく一気に飲み出す元気な仲間達もあちこちにいた。

会場は改築されて綺麗になり、椅子も整っていて、いままでの畳座敷の雰囲気とは違っていたがいつもの様にグループが輪になくなって団らん楽しんでた。
*今回は節目として出席者全

員特記する。(敬称略)

福沢富夫 寺沢昌治 山田博
 章 龍口秀夫 福澤里次 池内
 秀夫 福島光穂 山内昭八 太
 田晃稔 国枝庸正 松村定雄
 湯澤五郎 久保田誠 清水敏夫
 松村達夫 小島麗逸 市瀬与彦
 伊藤賢二 金田士郎 柏原善一
 芦部秀三 片桐康 加賀見英雄
 清水勉 堀江浩 林均 林千俊
 横谷伸

(福澤里次/記)

■高5回

大団円と有志の会設立報告

毎年開催してきた同期会は、昨年同様「東京ガーデンパレス・文京区湯島」にて、さる6月7日に開催した。担当幹事から今年は、卒業以来65周年を区切りとして、従前の形の同期会を大団円とし、明年以降は「有志の会」として続けていきたい旨語り、各員了承されました。

私達は、昭和25年4月に入

学、入学定員は400名、疎開生の転出が多く卒業時は、368名、現在連絡可能者は240名になっている。うち、首都圏在住者は70余名となっている。次年度以降の「有志の会」は、ゆるやかに、かつ気楽に参加できるように運営し、肩のこらない親睦を目的にしていくことを目標にしている。

次年度開催日は、2019年6月6日(木)午後1時、場所は「東京ガーデンパレス」となっている。次年度世話人として、中島満三、原哲也、山口浩、津野典子の4氏にお願いしている。



(前列左から) 市瀬長子、堀田圭子、津野典子、水上典子、白江繁子、岡島貞美、沢柳伸、久保田美 (後列左から) 井上侯尉、木下文之助、宮内宰治、山口浩、原哲也、小椋貞夫、原計芳、中島満三、林璋、仲間良仁 (敬称略)

会の運営に当たりご意見などあれば、前記世話人までお寄せください。

会を大団円するに当たっては、毎年多くの方々に幹事を

■高6回

運動会の記憶

在京6回生の同期会は毎年4月。今年の実行幹事は東中の担当。皆さん八十路を超えて参加者の減少を心配したが、昨年を1名上回る38名の参加者を得た。卒業以来の顔、遠来の顔ありで、再会の喜びを交わすことができた。しかし、追憶の彼方へと去った友もこの1年で7名を数えた。

(小椋貞夫/記)

さて、今年の出し物は、高松高校時代の運動会応援歌。当時の運動会は全学級を赤・白・碧・紫の4組に分けた組對抗競技方式が採られていた。この応援歌のメロディを

■高8回

第42回八松会

関東支部総会・懇親会

平澤正道君がハモニカで演奏できるというので、披露してもらった。現飯田高校はクラスマッチになって久しいと聞いたので、この応援歌の再現、保存を思い立ったものである。また、3年のときの運動会では、ファイアー・ストーム終了後、飯田市街へ隊伍を組んで練り出したことが思い出される。飯田駅頭で解散となったと思うが確かでない。勿論準備された行動でなく、どこからも咎められた形跡はないようだ。

ところで、紫組の「ああ正大の気はあふれ 香諸なびく 高松の・・・」(選手壮行歌)を記憶している者はあっても、他の歌を記憶する者は皆無。他方、I組の大名行列やC組の不安隊などの仮装行列を記憶する者は多かった。

(藤本義久/記)



平成30年6月6日飯田橋ホテルメトロポリタンエドモントで開催。女性3名、総勢29名参加。塩沢満

名参加。塩沢満君、遠路飯田から参加して頂いた。

中田加津三君の司会のもと最初に他界された同級生6名のご冥福を祈って黙

祷。羽場良和会長の開会挨拶、「現在人生100歳時代、80歳は一人前になったばかり、まだまだ元気で八松会を大事に楽しもう」と挨拶。

会計報告・川上政司君、監査報告・加藤毅君、役員改選・羽場

会長以下現役員承認、宮下久夫幹事は業務の都合で退任希望、承認された。

懇親会は、狛犬研究の三宅稜威夫君の音頭で乾杯。今村征一君、森田忠良君によるハモニカ、「高原の旅愁」、「みかんの花咲く丘」など懐かしい曲の演奏があり、さらに「故郷」、「勘太郎月夜唄」を、会場の全員でハモニカに合わせ

て歌った。「いやー久しぶり」と肩をたたき合って近況、思い出話に花が咲いた。

恒例により飯田高校校歌、応援歌「勝利の曲」を全員で斉唱(指揮・秦初博)。

久保田善人君は閉会にあたり「八松会は健康・元気のもと、次回も是非ともご参加頂き八松会を盛り上げましょう」と挨拶。「いよーお、ばん！」の一本締めで閉会。

(秦初博/記)

■高9回

傘寿の Veteran Amazon
関東地区同期会に結集

6月15日市ヶ谷のアルカ
ディアにて「高松」高第9回



生同期会を挙行、出席者26名
(案内状発信101名、欠席返
信52名)。回顧談・近況報告・
太極拳の演武、料理を食べな
がら久闊を叙し、「血管年齢の

若返り、ボケ
及び頭髪後退
の阻止」のた
めの「大周天」
で締めくくつ
た。

(三石善吉/記)

グロ会」が今なお開かれてい
ることを書かせていただく。
かつて仲間が、同窓会本部の
会報に「ニグロ会」と書いた
ら「差別用語だから変えてく
れ」と言われたそうだが、こ
こでは歴史の現実と差別用語
を使うことを認めていただき
たい。

先生の当時の本名は「北原」
光久先生。昭和31年「伊那弥
生ヶ丘」に転任された。今は
養子縁組で「測井」と変わって、
89歳、上伊那の箕輪町に住ん
でおられる。だから同級会は
この近辺で開くことが多い。
「ニグロ会」が始まったの
は、卒業50年記念の昼神温泉
での同年会に、半世紀ぶりに
先生が姿を見せられ「タンザ
ニアからはるばるやってきま
した」と冗談交じりのあいさ
つをされてからである。この
時、先生のニックネームを覚
えていない面々は、何を言っ
ておられるのか分からなかつ

■高10回

毎年開く「ニグロ会」

飯田高校は今でも「高松祭」
と言っているそうだが、我々
が学んだ頃(第2回生から10
回生まで)文字通り「飯田高
松高校」と言われていた。そ
して私たちは「飯田高松高校」
最後の卒業生である。「高松」
という響きは何とも言えない
語感である。

ところで、その当時、漱石
の「坊ちゃん」の影響があつ
てか、名物先生たちにニック
ネームが付けられていた。「お
うま」「だるま」「うらさう
らなり」「つる」「馬車馬」「あ
なぐま」「エロ」「いちじく」「エ
チル」「ニグロ」等など。この
先生たちを歌った替え歌もコ
ンパで歌われていた。先生た
ちの顔を思い出すと言いつ
妙、決して揶揄や差別だけ
なく親近感も入っている。

ここでは、その中の「ニグ
ロ先生」を囲む同級会「ニ

たようだが、私は「先生、よ
ほど嬉しかったんだな」と聞
いた。その翌年、われわれに
とっては69歳から毎年「ニグ
ロ会」をやるようになったの
である。

先生は、4年前から腎臓が
んを患っているが、進行が遅
いのか、この会に出るのを楽
しみに、その日は抗がん剤を
控えて出席されていた。

先生にとってもいろんな道
を歩んだ教え子の話を聞き
たいし、われわれにとつて
も、陸軍兵学校から東京教育
大(高等師範)を通じた時代、
史実と考えを知りたいので、
本当に楽しい時間なのであ
う。かの「強歩大会(第2回)」
で最長距離(84km)を企画し
た自治会長矢澤貞夫君もおり
話題も豊富。毎年20人前後が
集まる。

平成29年も10月23日に予定
されたが、大型台風の来襲で
延期され、11月22〜23日に開

■高15回

「東地区いちご会」

本年2月、第31回「東地区
いちご会」を開催しました。
いちご会の名称は高15回卒の
意です。本年、松島幸一君から、
そろそろ「一期会」にしよう
と提案があり、今後はこの「い
ちご会」になります。齢70歳
超になりますと、残念ながら
お別れせざるを得ない方達が
出てきております。本会の主
役はあくまでも参加者一人ひ

とりであり、その主役にとつ
て、かかる時「二期に一会」
の思いで参加する会だからで
す。今村毅夫君の名司会の進
行で、13時開催の会もあつと
いう間に17時。興じたビンゴ
ゲームの後、大きな声を張り
上げての飯高応援歌で、皆、
気持ひとつになったものでし
た。急遽、この時期豪雪予想
で飯田の参加者が、また、イ
ンフルエンザでと、不参加者
がでる一方で、大阪から車椅

東地区いちご会

[高15回生一同]

年に一度、「東地区いちご会」総会を次の
日時・場所で開催しています。

—— 初めの方もぜひご参加ください。——

日程 2月の第1土曜日
時間 午後1時～(時間を早めました)
場所 新宿サンパーク本館(7階)



ARCADIA ICHIGAYA
SHIGAKU KAIKAN

http://www.arcadia-jp.org

四季の語らい、くつろぎのひととき。

BANQUET ACCOMMODATION RESTAURANT
宴会・会議 宿泊 レストラン

アルカディア市ヶ谷
私学会館

JR線・地下鉄(有楽町・新宿線・南北線) 市ヶ谷駅 徒歩2分
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
TEL 03-3261-9921 FAX 03-3261-7760



子の講師・折井亮夫君が、また31年目にして初の福田璋夫君等の参加がありました。折井君は講談を一席、皆、これを傾聴。気象庁元予報官の市澤成介君が、NHKに出演・



講演した「本年の予期しない気候の雨／台風経路の変化」についての話をしてくれました。参加者達、和気あいあい、大いに盛り上がった会になりました。

一期一会！
来年2月2日、新宿サンパーク
でまた、お会い
しましょう！
（佐々木康夫／記）

■高22回 つくば見学会開催報告 （産総研に長く勤めた大時さんの記）

今年（2018年）4月6日（金）に開催され、6名が参加しました。アレンジは全て産業技術総合研究所（産総研）計量標準部門にいた瀬田君がやって下さいました。平日の開催であったため、職員を多数見かけました。

サイエンススクエアでは産総研全般の展示がされています。癒しロボットのパロも展示されており抱っこしたりできます。内臓バッテリーのせいか意外に重いです。私が個人的に興味を持ったのはごく近い将来キログラム原器に取って替わるシリコンの球でした。密かにノーベル賞ものだと思っています。MKS（メートル、キログラム、秒）単位系の最後の砦であるK（キログラム）の物理量によ

る同定です。アボガドロ数とかモルとか物理や化学で習ったことが目の前に現物としてあると、「その筋の人」は感動します。日本でキログラムやメートルを供給している御本尊が産総研計量標準部門です。瀬田君が詳しく説明してくれました。私自身は産総研を離れて10年経つので分野名とか研究テーマがガラッと変わってしまったのを感じました。産総研内のレストランで昼食をとった後、地質標本館へ行きました。フォッサマグナの岡谷地層を切り出したものとか、プロジェクトンマップピングで地質を色分け表示したりする大掛かりな装置があったりして迫力あります。特に女の人にとってはルビーとサファイヤの違いとかに興味があります。日本のどこに資源があるかを正確に捉えてい

■高17回 古希の祝いを真勉かしこで開催

一昨年（2016年）から昨年にかけて、同期の仲間（はじめてたく古希を迎えた。この間、主なものでも「飯田シルクホテル」で盛大かつ厳粛に、また上野界隈散策を兼ねて「水月ホテル臨外荘」で、それぞれの「古希を祝う会」が開催された。また、EF組が中心となって発足した「赤石・中央線の会」には新年会など定期的に有志が集まっている。最近では、昨春秋、證誠寺やお富・与三郎の由来で有名な古い港町、千葉木更津の地で一泊二日の旅行を楽しんだ。

号に「満州分村を拒否した佐々木（元）村長の話」という村松明君の論文が掲載された。阿智村の満蒙開拓平和祈念館は、昭和初期の国策で満州に移植した歴史を伝えているが、当時の国策に断固反対した天下条村の佐々木忠綱の話である。この中で詳しい資料に基づき医療・教育面での業績も紹介している。

また、牧内誠君の「伊那谷から消えた樹木」という論文が、3年前に掲載されている。羽場の大エノキ、平谷の大柳、泰阜村のヒメバラモミ、泰阜村の大クワなどは無き天然記念物を始め、祖父について、幼いころからあちこちの著名な樹木を見て歩いたという彼らしい研究成果である。さらに、同誌の古文書解説クイズで、関島泰治・後藤澄寿の両君が成績上位者に掲載され博識ぶりを発揮している。

（脇坂英文／記）

るのが産総研地質部門です。午後の二件目は筑波宇宙センター（JAXA）スペースドームと呼ばれる展示場でした。ここにはH2ロケットとか衛星の模型とかが展示されています。私はGPSでどうして日本だけを24時間見続けられるのかの説明に興味がありました。続いてJAXAのガイド付き見学ツアーに参加しました。私はこのツアーは実は初めてでした。撮影禁止の宇宙ステーション管制室

を私は生まれてはじめて本物を見ました。携帯電話を預けたり、身分証明書が必要だったり、少し緊張しました。実時間でNASAの管制室を見ることが出来て感動です。夕方は夕食を兼ねた懇親会がつくばエキスポプレスクックバス駅近くで催されました。野底川が氾濫した話とか、自衛隊に助けられた話とか、急に飯田ローカルな話で盛り上がりました。大都会飯田の住人ではない松川町出身の私にとって



（左から）三ッ橋史緒子、斉藤博人、瀬田勝男、木下安司、福島玲子、大蒔和仁（敬称略）

は土地勘がないのですが…。
最後までお世話になった瀬田君に感謝致します。
(大時和仁/記)

■高23回

来年は飯田で会いましょう
(本部同窓会の幹事学年です)
毎年やっている「ニイサンカイ」が6月2日、赤坂見附駅のそばにあるE組の北澤君のお店(グランクリュ)で行われた。去年と同じ所で料理やお酒(ワイン等)が好評だったので今年もここに決めた。23名の参加があり、そのうち女性が6名。年齢が65歳を過ぎ、仕事からリタイヤする者が多くなってきたのか、参加する人が少しずつ増えてきた。7年振りに参加してくれた者や、飯田からも来てくれた。1年振りにみんなと会って色んな話に盛り上がってとても楽しかった。そこにもうまい料理と酒があればもう何も

いらぬ。でもただ一つ気がかりな事がある。それは今までずっと参加していた者が、ここ2、3年音沙汰が無いことだ。変な噂は聞かないから元気でやっていると思うが心配だ。
今年「信濃の国」が県歌に制定されて50年ということ最後にみんなで歌った。みんなこの歌を歌うことに喜びを感じているみたいだし意気軒昂だ。

さて来年のニイサンカイはお休みです。飯田で行われる高校全体の同窓会の幹事学年が23回生の担当になり、そのあと23回生の同年会も開催されます。よって来年は飯田に集まってもらいましょう。皆さんよろしくお願います。
(原泰/記)

■高32回

39年ぶりに
地元で同期会を開催!

昨年の在京同窓会で幹事を務めた私たち32回生は、その二次会で団体名を「ゴーゴミニー(昭和55年卒32回生の会)」と名付け、以来、学生時代に戻ったかのように各所でさまざまな活動(主に飲み会ですが)を続けています。有志で「飯田32ゴルフ班」を結成。4月21日に、第1回ゴルフコンペをKOSHIGAYA GOLF CLUBで行いました。その晩、新宿で第1回懇親会も開き、再び交流を深めたのでした。

しかしなんといっても今年ビッグイベントは、9月15日に飯田シルクホテルで開かれた「飯田高校32回生同年会」です。卒業25周年記念の同年会をしてこなかった私たちにあって、実に39年ぶりの地元飯田での同期会。このために

えました。
みんな、元気でまた会いま
いなあ。
(下平紀代子/記)

■高33回

今年の幹事学年
ラグビー班の勢いと共に

在京の高33・43回生は、今年の在京飯田高校同窓会・総会の幹事学年として、3月以降2か月に一度のペースで幹事会を開いております。

昨年の同窓会・総会が過去最高の出席者数を記録するほど盛況でしたので、この勢いをきちんと引き継いでいこうと、今年是我らの同期生・湯澤一道監督のもとで活躍が著しい飯田高校ラグビー班を講演会のテーマとして取り上げる予定です。

特にラグビー班出身の若い方々を中心に母校の同窓会・総会に関心を持ってもらい、そこから新しい出席者の輪が



(後列左から)村松和彦、萬場洋介、吉澤広和、遠山邦彦、松村尚哉、中平良郎、佐々木久雄、中塚泰夫、(前列左から)中平美由紀、下平紀代子、佐々木裕美 <撮影>藤本敏文(敬称略)

る祝典幻想曲」と、それぞれのピアノ演奏を聴いて感動したあとは、互いの健康を祈り、再会を誓い合って大団円を迎

広がっていくことを期待しています。

幹事会是有楽町で行っていますが、幹事会のある慰労会では、桑名の蛤を供する居酒屋で、蛤のガンガン焼きに舌鼓しながら、今年の同窓会・総会も蛤と同じく味わい深く記憶に残るものにしたと、氣勢をあげております。
(代田秀雄/記)

5532
ゴーゴミニーの会
昭和55年卒32回生

高32回生の皆さん、
年2回の定例会、ゴルフコンペ等の活動を行っています。
ご参加お待ちしております!

E-mail/ iidakou32@yahoo.co.jp
URL/ http://iidahs32.blogspot.com/?m=1

**在京同期会の活動報告を
お送りください!**

封筒表書き、または件名に、『稲穂』第16号「同期会便り」原稿と明記のうえ、郵送またはメールでお送りください。
送付先は108ページをご覧ください。